

おっしゃって、研究室内でネコの鳴きまねをし始めました。それがとなりの図書室に聞こえて、あとで他の人に何をしていたのかと聞かれたという記憶もよみがえってきました。

ご家族思いの先生のお宅には、ぬいぐるみの他にいつもご家族のお写真が数枚飾られています。お子さんやお孫さんのことを話される先生は一番イキイキしておられます。一見とっつきにくそう

な先生ですが実はとてもひょうきんで気さくな方なのです。先生のお人柄はあの暖かいご家庭があってああなのだと一人で納得してしまう私です。もちろん学者としての先生のご活躍はいうまでもありませんが、別の一面をこの場を借りてご紹介させていただきました。先生いろいろバラしてしまつてごめんなさい。そして長い間本当にありがとうございました。(30回生)

浅海先生とチョコレートパン

西澤世子

卒業致しましてから10年がたちました。育児に追い立てられてという言い訳を差し引いても、恥ずかしい限りの記憶ですが、ゼミでお世話になりました浅海先生の事で、良く覚えている事があります。

私は卒論で、郷里に近い妙高高原を選びましたが、その時先生に一日一緒にまわっていただきました。夏の暑い日でした。山にはいったら何かと不便だと思い、あらかじめ「お昼はパンでいいですか。」と伺いますと、「ええ、いいですよ。」とおっしゃいます。「何がいいですか。」と伺いますと、「チョコレートパンはありますか。」とお聞きになりました。私はちょっとびっくりしました。私は自分の分は何を買ったのかまったく覚えていません。チョコレートパンはちゃんと売られており、お昼はパンとジュースでした。

浅海先生は、常日頃より寡黙で、角の研究室兼実験室でいつでも熱心に研究なさっておられました。私達の年度は2度巡検で指導していただき、(1度も担当していただかなかつた先生もいらっしゃいます)お世話になっていましたが、パーソ

ナルな面を見せていただいたのはこの時が初めてでした。私はずっと先生達に親しみを感じるという事が、とても難しいと思っていました。ニーズがなかったといえぼそれまでですが、熱心な学生でもありませんでした。ですから、先生はチョコレートパンがお好きということ、特に忘れずにいたのだと思います。

その日の夕方、先生に挨拶致しました私の父が、「四年間学んだ地理学を仕事として活かすのは大変難しいようで、残念な気がいたします。」と、申し上げました。実際、言い訳がましいのですが、あの年は就職が大変な年でした。先生は、「大学で学ぶだけというのは、大学でしか学べないという事で、逆に云うと大変貴重だと云う事です。」とおっしゃいました。私は四年目の夏に初めて本当に不勉強を後悔しました。

とにかく、フィールドに来ていただいた事とか、その時先生にチョコレートパンを買った事とかは、卒論の出来、不出来とはまったく関係なく私には大変新鮮なことでした。(28回生)